

日本のサブカルチャーを再検証。  
明治・大正・昭和初期の日本映画と  
大衆娯楽、風俗に関する稀少文献集成。

# 最小端 民衆娯楽映画 文献資料集



全18巻

【監修・解説】 牧野 守

【解説】 50音順

阿部 マーク・ノーネス  
Abé Mark Nornes

板倉史明／岡田秀則

加藤厚子／小林貞弘

佐藤 洋／田島良一

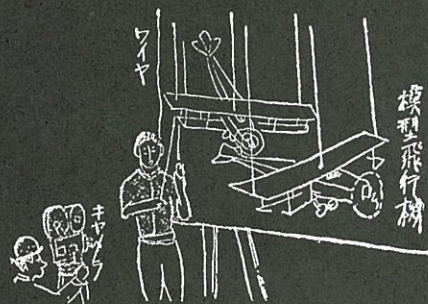
田中眞澄／洞ヶ瀬真人

那田尚史／波瀾 剛

波多野哲朗

ピーター B. ハーイ  
Peter B. High

藤木秀朗／村山匡一郎



## 序

ジゴマとは福寶堂の活動写真で、お馴染の神出鬼没の大賊の名であります。活動写真通の間にはジゴマを見ない人は活動写真のことを語る資格がないとまで言はれてゐます。それは写真が變化に富んだ面白いものであるからです。このジゴマの小説の原作者は佛國文豪サーシー氏で巴里のル、マタン新聞に掲載されたのであ

## 栗原喜三郎君

住所 横濱市北方町小港七二  
映畫撮影の知識と實驗に富んだ者を我が國映畫界に求めたならば、先づ第一に栗原君に指を屈することが決して過賞の言ではないと信するのである。君は相洲美野三代相續の材木商の家に生れて父の業を扶けて居たのであつたが、山梨縣に二百町歩の大山林を買収してその木材運搬の爲めに險崖を開鑿して道路を布設せなければならぬことゝなつたが、それに莫大の資本を要することゝなつた爲めに、遂に父業は大失敗を來し、すべての財産は惜むらくは悉く債權者の手に委して了ふことゝなつたのである。然るに當時十七歳の君は才氣濺瀾大に未來を矚目されてゐたので、多くの債務に父と連帶の責を帯びてゐた關係からして、君に迫つてその債權の回收を促すことなかく、急であつた、君思へらく巨額の負債を償却を内地にありては容易の業ではない、寧ろ

活動写真名鑑

渡米して大に成すところあらんと決心し出額三回にして十九歳の春やつこのことで渡米免狀を得て大喜び族の仕度もそこゝに一青年栗原君は米國に渡りてスクールボーイとなつて稼ぎつゝ勉強すること十年、相當の貯蓄も出來縣人のためにも亦日米親善の爲めに大に盡すところがあつたのである、ところがあまりに人の勢力には際限があるあまりに活躍過ぎたので遂に病の床に臥すことゝなつたのであるが、此の十年間に於て、さしもの負債も見事償却して了つたと云ふことは常人の企及し難いところである。君の志望は更に大學に進んで大に文學の研究をやつ見る積りであつたのであるが病を得ては何とも詮術もなく空しく悲憤の涙を呑んでベットの上に横たはつてゐる、ところが、異境に病を得ては頼るべきものは只黄金の方である、十年苦心貯へてゐた財産は藥餌のためにカラケツとなつて苦境に呻吟して茲にクリスチャンサイエンスを信す

二二五

## 本書の特色

- ★最尖端のマスコミュニケーションツール=映画をモデルケースとして時代に肉迫。
- ★大衆の嗜好、社会現象の形成、女優の登場、映像表現と女性美、映画と検閲 etc…………、作品受容の歴史研究に新しい視点を提示。
- ★今日のサブカルチャー、マスコミュニケーションを見直すうえで必須の基礎文献資料集。

一九一〇年代、明治期及び大正期は、日本が急激な近代化に直面する時代として特色付けられている。

その時代の華となったのが映画である。エンターテイメントという近代娯楽のトップバッターとして活キチ(映画ファン)が誕生することで当時の大衆娯楽の殿堂である映画館に観客が溢れ、ここで上映されたプログラムから時代の流行、風俗が生まれていった。この時代こそが、今日称される「シネマエイジ—映画黄金期」そのものの到来であった。

社会も世相も、家庭などの生活の文化そのものが、すべて近代都市の構造に規定され、映画は西欧化のショーウィンドウとなって、その尖端と認知された。フランス製作の犯罪映画「ジゴマ」が封切りされ、社会現象と

## 刊行にあたって

牧野 守

してブームを巻き起し、その主人公をテーマとすることで歴史上にも話題として記録されるといった事件を始めとして、映画のスリル、サスペンス、意外性といった物語の展開に観客は熱中した。

やがてスクリーン上に女優の誕生による男女のラブロマンスやセックスアピールの作品が輸入、上映されてそのテンポやスピードに魅力されていた。それまで日本にはなかった妖婦役という新しい女性像が銀幕上に誕生、そのファッションやポーズとキャラクターも創造されることで、映画が全都の話題を独占することになった。

現在のマスメディアの原型であった映画の本質がこの時代にすべての可能性にチャレンジしたことで、今日の複雑な情報時代に到達していても、あらゆる問題を提起していることを無視することは出来ない。

# 最大端民衆娯楽映画文献資料集 全18巻の収録内容

## ▼第一回配本▲全8巻

好評発売中

### ◆第1巻◆

## 探偵小説 ジゴマ

桑野桃華 / 明治45年 / 有倫堂



明治期とともに日本の文化状況はドラスティックに一変した。それは社会の構造を根底から揺るがす近代化が推し進められたことよって生じた。特に都会に居住する庶民の日常生活に影響を齎したのが江戸時代からの大衆娯楽で、映画産業の出現によって興行の様式が急転したのである。旧来の見世物小屋での手踊りといった単純なショースタイルから、文明の利器として華々しく登場した活動写真の興業化と活動写真館のラッシュで、まさに活動写真は時代の花形となった。活動写真館は民衆娯楽の殿堂として次々

に上映される作品に魅了された熱狂的なファンを形成し、その社会

的な現象が世論の動向を左右するまでの威力を發揮し、やがては教育界から取締当局による規制の対象となるに及んだ。それは単なる社会風俗上の批判では止まらず旧世代にとっては日本の伝統的な風習や慣習の土台を侵蝕する勢いで迫るものであった。活動写真館が西欧のショーウィンドウの役割を果たし、時代のファッションをリードして近代化の原動力となったことは、当時を物語る顕著な歴史的事実であった。

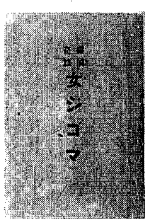
明治の映画黎明期に、歴史上でも大きな社会的事件として記録された「ジゴマ騒動」が勃発した。一九一二年に封切られた仏映画「ジゴマ」が、凶悪な犯罪者ジゴマ団のZをテーマにしてその残忍な手口をスリルとサスペンスたっぷりに描き、満都の映画ファンの話題を独占、この出来事で為政者側は映画の規制強化に踏み切り、問題は社会的にもインパクトを与えた。映画が映像という表現にとどまらず、初めて映画(ジゴマ)が大衆意識の登場によって衝撃を与えた象徴的な記録として留められたのである。関連する「ジゴマ」書籍も刊行されて、映画の語法を読み物としたノベライゼーションのきつかけとなり後世にも知られることになった。その相乗効果による新しいメディアのジャンルの近代化に拍車をかける役割を果たしことでも興味ある事件となつて、本書は実証された最初の一

冊である。+総合解説(牧野 守)解説(阿部マーク・ノース)

### ◆第2巻◆

## 探偵奇談 女ジゴマ

筑峰 / 明治45年・大正3年 春江堂



フランスの作家レオン・サージーによる新聞連載小説を映画化し、フランス・エクレール社製作によるヴィクトラン・ジャック監督の連続映画「ジゴマ」が日本に輸入されて封切となると、その主役のジゴマの犯罪手法に観客は魅了され、評判が評判を

呼んでブームとなり、同様の傾向の犯罪映画が続々と日本でも作品化されてスクリーンに横行する現象が生じた。「ジゴマ旋風」の社会的なインパクトは大都市ばかりではなく日本全国の隅々にまでも拡大し、映画を小説化した作品ではあるが、日本独自のテーマと物語によって創作された「ジゴマ」が誕生した。この大衆文学という多数性を認知することで、文化史上にも大衆向けの商業小説を成立させる出発点となった意味は大きい。ともあれジゴマの映画観客を

小説の読者として取り込むことにより、ジゴマ人気に便乗して映画の魅力の小説に移し替えることで、新しいブームを築きあげること成功した関連性は注目する現象であろう。

↑解説(洞ヶ瀬真人)

### ◆第3巻◆ 活動写真 日本ジゴマ

江沢春霞／大正元年  
三芳屋書店



「ジゴマブーム」のイミテーションの日本化を図り、しかもジゴマの犯罪を強力で画面で描き出し、活動写真の迫力を損じない工夫をこらして、ブームに便乗する商業主義の興業化を試みた。本書の解説では、劇場での公開に際して、ジゴマと称された和洋合奏の軽快な伴奏音楽と、活弁と呼ばれた弁士の口上を観客に一層のインパクトを与えて、全国各地の公開上で話題を独占した状況を、名古屋地域の受容として言及しているのは興味深い。「名古屋の浅草」として知られた大須興行街を対象とした上映と観客の反応と取締当局の対応の変遷ぶりが、以後の映画の動向と深く関連していることが理解されるであろう。

### ◆第4巻◆

## 女盛衰記 女優の巻

三楽流子・小生夢坊・小ぐら生  
大正8年／芸術書房



近代文明の発明として誕生した活動写真によって、それまでの舞台上では考えられない一大変革が起こった。それまでは江戸時代から女芸人を禁止していたため歌舞伎などに男性による女形という特殊な形態が生れた背景があったが、女優の出現が可能となった。この時代の批評家たちの熱っぽい筆致が代弁するかのようになり、リアルな女性の肉体がスクリーンにクローズアップされることで観客は大満足の様相を呈した。洋画のスクリーンは勿論のこと、数少ない和製の画面にもアイドル化した映画女優が次々と姿を現し、それぞれのファンを博して高まることになった。本書はこの時代の特殊状況をつぶさに取材した映画記者たちによって記録された珍しい資料で、やがては大スター時代が到来する、過渡期の女優誕生の現場が生々しく描かれている。

↑解説(那田尚史)

### ◆第5巻◆

## 活動写真名鑑 前編

岡村紫峰／大正12年  
活動新聞社

映画界が成立して特に観客を主体とした興業界が華々しく街の話題を独占するようになると、その映画スターたちへの関心というところになった。映画ファン気質として興味を抱く映画俳優のスターたちを紹介するアルバムや名鑑といった類の出版物が数限りなく



刊行されるようになった。本書はその種類の第一号というべき「映画スターの本」である。つまりスターのデータベースとしての性格が求められる刊行物ののだが、一九二〇年代は映画に関する情報の体系化が盛んになった時期にもかわらず、今日の名鑑の性格を無視したユニークな紙面構成がなされている。草創期の名鑑らしい独特のネットワーク体制による現場取材と、映画ジャーナリストによる直接の聞き取り調査によって作られた、生資料に近い内容となっており、多様な業種例を包括して、この時代を生きた映画界全般にわたる人物像をクローズアップして重要な記録を提供している。

↑解説(藤木秀朗)

### ◆第6巻◆

## 映画万華鏡

牛原虚彦／昭和2年／中央美術社



筆者の牛原虚彦は東京帝大卒で映画界入りした第一号で、やがて松竹を代表する監督となったユニークな人物である。この監督が出身の熊本旧藩主(細川侯)の後援により訪米した記録を一冊にまとめたのが本書である。映画分野でこの様な手記を刊行するケースは珍しかったが、映画人としてハリウッドを見学した体験を実に生き生きと文章にまとめたつ、筆者の鋭い観察力と専門的知識が可能な見聞記となっている。特にチャップリンの撮影見学が可能となり間近にチャップリンの監督ぶりに接すること、生涯の師として彼を尊敬した。以後の牛原への影響と映画人としての足跡を無視出来ない。このほかに牛原の自筆の脚本が包括されていて、牛原の才人ぶりをうかがうことが出来る。

↑解説(村山匠一郎)

### ◆第7巻◆

## 彼を繞る五人の女

田中栄三／昭和2年  
文藝春秋出版部



映画監督として一流のキャリアを持つ田中栄三が執筆した脚本集であるが、それが単に自作のシナリオを刊行したということに止まらず、この作品の同題の映画化を監督したが、検閲によって結局は内容が制限を受けて、結果が全く変更せざるを得なくなったことに対し、監督としての意志を貫くために原作の意図を忠実に再現して、抗議の意味も含めて刊行したというユニークな脚本集である。映画の物語が、プレイボーイの主人公が、女性遍歴の末に幸せな結末を迎えるハッピーエンドに対して、それではいけないという検閲官の判断により、映画館で上映された作品はエピソードを改変されるという前代未聞の措置を蒙ったことに対して、本来の

映画の原作のままに刊行されたということで、当時の映画界が映画検閲の受難史とまで称された事実を実証することで話題となった問題の書である。

↑解説(板倉史明)

### ◆第8巻◆ キネマの人々

朝島黎吉／昭和2年／啓明社



本書は大正中期に盛んに出版された、スターを中心とする話題を提供した類書の一冊ではあるが、この一九二七年という年の特殊性と関連づけると、社会、文化状況と日本映画界の人々の姿がリアルに記録されている側面があり、特に映画俳優の日常の素顔と私生活までも記述されていることで、モダンな潮流を今日のテレビ放送の実況中継のようにありのままの現実を伝えてくれる点でも興味深い。

↑解説(加藤厚子)

◆第二回配本◆全10巻 2006年12月刊  
文久社書房

### ◆第9巻◆

## 映画の性的魅惑

婦山教正／昭和3年  
文久社書房



映画の魅力として、そのセックスアピールやエロティシズムに焦点をあてた内容で、この分野の最初の出版物となった問題の書である。この映画で表現される性的魅惑の歴史の変遷を辿り、観客の心理的受容と性的魅力の感情の内面までを分析、映画に見られる表現の画面を分析して、細部に及ぶ観察により、映画表象の機能をポルノティックな視点を学術的研究にまで高めることに達した筆者の処女出版物である。

↑解説(岡田秀則)

### ◆第10巻◆

## キネマ・スターの素顔と表情

羽太鋭治／昭和3年／南海書院

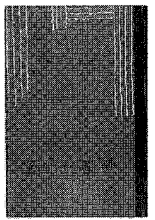


筆者は性問題で当時著名な医学博士で、内外のスターたちを対象にして、男女を問わずその魅力を分析したことで注目を浴びた異色のスター集である。その男女の魅力が映画でどう生かされているかの徹底的な観察と解剖によって、この時代のファンの氣質までを追求している。

↑解説(洞ヶ瀬真人)

# ◆第11巻◆ 映画の小窓

六車修／昭和3年／文行社

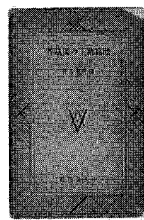


筆者の六車修は長年にわたり松竹キネマ蒲田撮影所幹部という生粋のスタジオオマンとしてのキャリアの持ち主で、本書は「私の映画国行脚の足跡である」と記している通り、草創期の撮影所の実態を克明に記録した映画人ならではの証言集である。映画誕生時代に始まり、映画の出来る頃から撮影所の機能の隅々にいたるまでを案内し、映画の魅力とその見どころを十分に解説していることで、初心者向きの映画の入門書としても評価された。本書に記述された当時の歴史的証言から、無視することは出来ない様々な問題を知ることが出来る。

十解説(田島良一)

# ◆第12巻◆ 映写幕上の独裁者

酒井真人／昭和5年  
中央公論社



モダンイズム期の映画スクリーン上の魅力を追及した、映画観客の立場からというより、むしろファンからの映画憧憬の心情を吐露した映画論文集。女優、男優から監督、映画説明者及び関係者を網羅して、その作品論やオマージュによる分析方法までの映画讃歌によって、この時代の映画がいかに観客によって支えられていたのかを知る手掛りとなっている。

十解説(波瀟 剛)

# ◆第13巻◆ 素顔のハリウッド

上山草人／昭和5年  
実業之日本社



筆者の上山草人は当時のハリウッドで数少ない日本人俳優で、国際的なスターとして人気の高かったキャリアを持ち、怪異な風貌でアジア系の登場人物で知られた。ユニークな性格俳優としてスクリーン上の存在感がわ立っていた人物である。本書はこうした書き手によるハリウッドの実像を見たまに綴った異色の書である。多くの撮影所の体験にもつくエピソードを満載するとともに、そのキャラクターの裏に秘められた悲哀にも迫っている。上山草人の出演目録といったテーマも掲載しており、上山草人の研究ばかりではなくハリウッドの全貌も描き出す貴重な記録である。

十解説(波多野哲朗)

# ◆第14巻◆ 世界映画風俗史

小倉浩一郎／昭和6年  
風俗資料刊行会



筆者の小倉浩一郎は異質の映画ジャーナリストとして、映画の風俗的效果に注目して評論を発表することで知られていた。その筆者の多彩なテーマを集めたのが本書である。映画が辿った道として、映画の好色の風俗の変遷、つまりファッションとしての風俗面から下着、海水浴、裸体、肉体各部の性的魅力といった映画ファンに興味を引くような内容を収録している。当時の傾向や、取締当局の検閲といった規制場面にも触れて時代状況を解説している。

十解説(邪田尚史)

# ◆第15巻◆ これ以上は禁止

ある検閲係長の手記  
立花高四郎／昭和7年／先進社

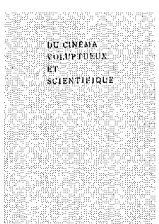


筆者の本名は橋高広、ペンネームの立花高四郎でも知られる。もともとはジャーナリストの出身で、主として興行分野の大衆娯楽のエキスパートとして長い経歴を持つ。やがて立花は警視庁に入り映画検閲分野の取締官となり、本書の副題にあるように、検閲係長として処分に直接関わる立場に任ぜられることになった。しかしながら本来は、日本に映られることになった。しかしながら本来は、日本に映られることになった。しかしながら本来は、日本に映られることになった。しかしながら本来は、日本に映られることになった。

十解説(ピーターB.ハイ)

# ◆第16巻◆ 猥映画と性映画

原比露志／昭和7年  
風俗資料刊行会



筆者の原比露志はこの分野の特殊なエキスパートとして、映画の風俗的影響や、ポルノといったジャンルの興業界での調査実績の持ち主である。これらの出版物は限定による非売品扱いで一般には販売されていなかったが、本書も私家版的なパンフレットで既刊の『寝室の美学』などに際して調査したデータを別途に刊行したという経緯がある。単に興行上にも上映の禁止されている作

品に対して、日本の伝統的な美術としてセックスペールを題材とする浮世絵の流れを実証して、日本のポルノティックな技法を追求することで、映画の新しい表現にスポットを当てる研究に従事した筆者の一面を知る手掛りとなるであろう。そこに時代における映画に対するファン層の興味の動向を覗き見ることもなるであろう。

十解説(牧野 守)

# ◆第17巻◆ 映画の倒影

小林いさむ／昭和8年／伊藤書房

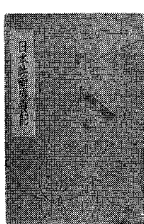


筆者の小林いさむは草創期からの活動弁士として、初期の前説からスクリーン上に活躍した華々しい活弁の立役者で、そのキャリアを生かして映画一筋に生涯をすごした人物である。その現場の視点から映画の黄金時代をつぶさに体験した映画百物語をはじめとして、埋もれてしまった事実をクローズアップしている筆者ならではの出版物である。

十解説(田中眞澄)

# ◆第18巻◆ 日本映画盛衰記

玉木潤一郎／昭和13年  
万里閣



筆者の玉木潤一郎は明治末期の映画界の成立に立ちあつたキャリアの人物で、活動写真の渡来から横田商會の成立、松竹の白井、大谷兄弟の売出し、各時代の映画人、牧野省三、尾上松之助から野村芳亭や阪妻にいたるまでの人物群の克明な記録を残している。まさにその時代を生きた証言者の出版物として貴重な存在である。

十解説(村山匠一)

# ◆第19巻◆ 検閲室の闇に吠く

田島太郎／昭和13年  
大日本活動写真協會



筆者はモダンイズムの映画黄金時代の内務省映画検閲室の内務理事官として、検閲業務の第一線で取締を担当してきた。勿論その性格上、社会風俗と検閲措置の視点からすべてを判断するとともに、映画の魅力、その効果に対して無関心ではなく、時代に規一辺倒ではなく映画動向や社会の傾向に配慮していることも理解される手掛りを与えてくれる。検閲も時代とともに生きて呼吸していたことに気付くことになる。

十解説(佐藤 洋)

# 最尖端民衆娯楽映画文献資料集 [監修] 牧野 守 全18巻

●全18巻揃定価276,150円(本体263,000円) A5判上製/クロス装/函入 ISBN4-8433-2087-0 C3374

第1回配本 全8巻 好評発売中 揃定価126,000円(本体120,000円) ISBN4-8433-2088-9 C3374

- 第1巻『探偵小説 ジゴマ』桑野桃華 定価14,700円(本体14,000円) ISBN4-8433-2090-0
- 第2巻『探偵奇談 女ジゴマ』筑峰 定価12,600円(本体12,000円) ISBN4-8433-2091-9
- 第3巻『活動写真 日本ジゴマ』江沢春霞 定価13,650円(本体13,000円) ISBN4-8433-2092-7
- 第4巻『女盛衰記 女優の巻』三楽流子・小生夢坊・小ぐら生 定価16,800円(本体16,000円) ISBN4-8433-2093-5
- 第5巻『活動写真名鑑 前編』岡村紫峰 定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8433-2094-3
- 第6巻『映画万華鏡』牛原彦彦 定価16,800円(本体16,000円) ISBN4-8433-2095-1
- 第7巻『彼を繞る五人の女』田中栄三 定価12,600円(本体12,000円) ISBN4-8433-2096-X
- 第8巻『キネマの人々』朝島黎吉 定価18,900円(本体18,000円) ISBN4-8433-2097-8

第2回配本 全10巻 2006年12月刊行予定 揃定価150,150円(本体143,000円) ISBN4-8433-2089-7 C3374

- 第9巻『映画の性的魅惑』帰山教正 定価 9,450円(本体 9,000円) ISBN4-8433-2098-6
- 第10巻『キネマ・スターの素顔と表情』羽太鋭治 定価16,800円(本体16,000円) ISBN4-8433-2099-4
- 第11巻『映画の小窓』六車 修 定価13,650円(本体13,000円) ISBN4-8433-2100-1
- 第12巻『映写幕上の独裁者』酒井真人 定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-2101-X
- 第13巻『素顔のハリウッド』上山草人 定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-2102-8
- 第14巻『世界映画風俗史』小倉浩一郎 定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-2103-6
- 第15巻『これ以上は禁止—ある検閲係長の手記—』立花高四郎  
『猥映画と性映画』原比露志 定価13,650円(本体13,000円) ISBN4-8433-2104-4
- 第16巻『映画の倒影』小林いさむ 定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-2105-2
- 第17巻『日本映画盛衰記』玉木潤一郎 定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-2106-0
- 第18巻『検閲室の闇に眩く』田島太郎 定価17,850円(本体17,000円) ISBN4-8433-2107-9

★関連企画のご案内 ※価格は外税。詳細な内容見本がございます。弊社営業部宛ご請求下さい。

## 日本映画論言説大系

[監修] 牧野 守 全30巻

- 映画生涯百余年の足跡を  
集大成する映像理論詞華  
集。各巻末には気鋭の研  
究者による詳細な解説を  
付す。入手困難な希少性  
の高いものを多数収録。
- 第I期「戦時下の映画統制期」  
全10巻 揃定価：本体150,000円+税
  - 第II期「映画のモダニズム期」  
全10巻 揃定価：本体184,000円+税
  - 第III期「活動写真の草創期」  
全10巻 揃定価：本体247,000円+税

## 国際映画新聞

[監修] 東京国立近代美術館  
フィルムセンター

全67巻 別巻1 ●揃定価：本体1,702,000円+税

## 「日本映画」「映画旬報」

資料・(戦時下)のメディア  
第I期：統制下の映画雑誌

[監修] 牧野 守 全51巻 ●揃定価：本体980,000円+税

## 今村太平映像評論 全10巻

[監修] 今村太平の会 ●揃定価：本体35,920円+税



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL .03 (5296) 0491  
FAX.03 (5296) 0493  
<http://www.yumani.co.jp/>  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方 映画史、メディア史、思想史、  
社会史、文化史、風俗史、モダニズムなどの研究者・研  
究機関。大学図書館。海外の日本学関連研究施設など。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03 (5296) 0491 / Fax.03 (5296) 0493		年 月 日	取扱店	※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。
	最尖端民衆娯楽映画文献資料集 全18巻 ●揃定価276,150円(本体263,000円) ISBN4-8433-2087-0 C3374		第1回配本・全8巻 定価126,000円(本体120,000円) セット		
お名前			第2回配本・全10巻 定価150,150円(本体143,000円) セット		
ご住所	TEL ( )				



06.09/01.7000.H